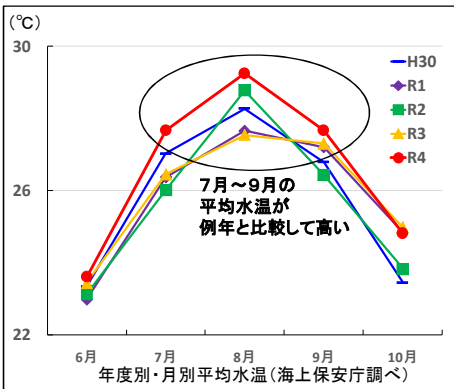
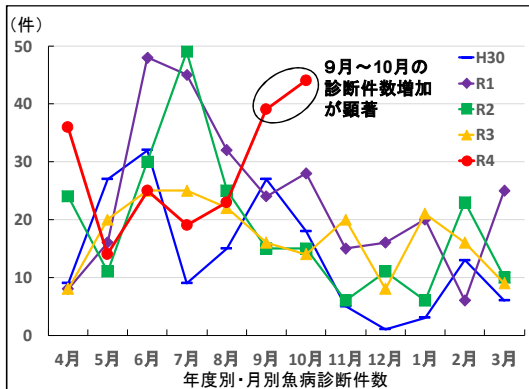


令和4年度ブリ類魚病発生傾向の変化

水産食品部 主任研究員 今岡 慶明

ブリ類魚病診断状況の変化



○例年診断件数が減少傾向となる
9月～10月に今年度は診断件数急増

○養殖業者からも、例年のない異常な斃死が多発したとの情報あり

○夏期の平均水温が過去5年と比較して高い
(養殖場によっては左のグラフ以上)

今年度の例年と異なる魚病発生傾向は夏期の異常な高水温が原因でハダムシ症、レンサ球菌症、マダイイリドウイルス病等が増加した？

ハダムシ寄生状況

ハダムシの種類

高水温期特に問題視
上: *Benedenia seriolae*
下: *Neobenedenia girellae*

養殖魚への影響

養殖魚の体表に寄生
→ 体表の擦りつけ
→ 体表の傷・潰瘍

対策

過酸化水素水による薬浴
養殖魚へのストレス大！！
ストレスによるショック死
摂餌不良
病気への抵抗力低下

○今年度は高水温の影響で特にハダムシ寄生が酷いとの情報あり

・直接的被害
・ハダムシ寄生に起因する様々な病気の併発
・眼球炎多発(情報あり)
・薬浴回数の増加(情報あり)に伴うストレス
→ ショック死の増加や病気への抵抗力低下

9～10月に病気が多発する元凶となった？

レンサ球菌症診断状況

症状

左上: 眼球突出
右上: 尾柄部潰瘍
左下: 心臓の白い膜(心外膜)
右下: 原因菌 *Lactococcus garvieae*

診断状況

10月の診断件数急増！！

対策

ワクチン接種
ただし...
ワクチン効果は一定期間経過すると切れる(9月～10月頃?)
魚自身が抵抗力をつける必要あり

○10月に多発した理由(推定)

例年
・10月には魚が本症への抵抗力を持つ
・本症が発症しやすい水温帯を下回る

今年度は
・夏期の摂餌不良により十分な抵抗力を得られず
・10月も本症が発生しやすい水温帯
・ワクチンによる予防効果が切れたことが重なって大量発生に至った？

マダイイリドウイルス病診断状況

症状

左: 鰓の黒点
右: 貧血

様々な魚種で発生
高水温期に特に多く発生

ブリ類においてはワクチン普及と共に減少していたが昨年度、今年度は多発

診断状況

R3は6月に多発
R4は9月に多発

○R3の6月多発の理由(推定)
モジャコの記録的不漁により池入れ時期が遅延
ワクチン接種が本症発生時期に間に合わなかった？

○R4の9月多発の理由(推定)
・ワクチン接種による予防効果が9月頃に切れる
・例年、その時期には魚自身が病気への十分な抵抗力を持つが、R4は夏期の摂餌不良により十分な抵抗力を得られず
・9月にも本症が発症しやすい水温帯

これらが重なって9月の大量発生に至った？

今後の検討事項

○高水温は自然現象であるため、それ自体を防ぐことは不可能
○現在、地球温暖化により水温は上昇し続けているため、今後も異常な高水温となる可能性は十分にある

これまで通りの対策では、再度同様の大量斃死を引き起こす可能性大

○モジャコの池入れ時期の遅延
R3年度と同じ流れだと再度6月のマダイイリドウイルス病多発を引き起こす可能性大
不漁が予測される時の蓄養・池入れ等の流れを再確認

○当センターでは養殖関係者と密に情報交換を行うことにより、大量斃死に繋がった要因を検討し、対策確立に努めたい

○養殖現場でも大量斃死を防ぐための工夫が必要(考えられる案)

- ・ワクチン接種時期の再検討
- ・水中カメラの導入等による頻繁な魚の状態確認
- ・収容密度、給餌方法等の再検討
- ・漁場の変更

等

他にもご意見があればいつでもお寄せください！！